

令和 6 年 3 月 21 日

報道機関 各位

医学部キャンパスで新たに見つかった被爆遺構(原爆遺跡)について

医学部キャンパスにおいて、工事を行っている中で、被爆遺構(原爆遺跡)が2か所から発見されたので、その内容と今後の取り扱いについてお知らせいたします。

1. 「旧長崎医科大学の生化学教室及び資料室の基礎」について（位置及び写真：別紙参照）

本遺跡が発見された場所は、令和5年10月中旬から工事着手した統合感染症研究産学官連携棟(仮称)新営工事の建設現場であり、熱帯医学研究所西側の駐車場であった場所で、建設工事における準備作業時に発見され、長崎市へ報告後、旧長崎医科大学の生化学教室等の基礎と、その直上に被爆後の整地に伴う可能性がある瓦礫層が残存していることを確認しました。その後、市と遺跡の取扱いに関する協議を行い、事業に先立ち精度の高い発掘調査を行う必要があるとの指導を受け、令和5年12月25日から令和6年2月22日まで発掘調査を行いました。調査範囲は約870㎡(うち、掘削面積約600㎡)、調査内容は遺物包含層・トレンチ(土層の堆積状況等を確認するため調査区の一部を溝状に深堀りするもの)の掘削、建物基礎等の遺構検出、各種記録の作成(土層断面図・遺構平面図・写真撮影等)です。現地調査の結果、遺構については旧長崎医科大学の生化学教室、資料室の当時の配置図と概ね一致することが確認できました。遺物については、主に瓦、煉瓦、ガラス等があり、今後、整理調査を行う予定です。

遺構の取扱いについては、長崎市との協議及び学内に設置した医学部遺構等検討WGの答申をもとに、以下の理由により、記録保存とし、本遺構撤去後に建設工事を進めることとします。

- ・本遺構には被爆による火災や爆風によるひび割れ等の痕跡が見られず、被爆当初の痕跡を残す遺構とは言い難いこと
- ・生化学教室(木造)の遺構上の瓦礫層に木材が焼けた時に生じる炭化物がほとんど含まれていないこと
- ・今回建設する新棟は、感染症研究分野における本学の発展に寄与する重要な施設であること

なお、本遺構の調査終了後は、次代への継承のため、調査資料や記録保存資料の一部展示、説明板の設置などを行う予定です。

2. 「旧長崎医科大学の旧通用門の門柱及び基礎」について（位置及び写真：別紙参照）

本遺構が発見された場所は、令和5年9月5日から工事着手した敷地境界沿いの擁壁整備の工事現場であり、記念講堂の南側です。本遺構は、令和6年1月25日に新たな擁壁整備のために、既存の法面の掘削時に発見され、長崎市へ照会を行ったところ、「長崎大学の通用門の門柱及び基礎であり、被爆遺構である」との回答があり、「新規の埋蔵文化財として届け出る必要がある。また、今後の取扱いについては有識者等の意見も踏まえ検討を進める」とのことです。大学としても、「旧正門」と対になる「通用門」として貴重な遺構と考え、今後については、「旧正門」と同様に現状の位置にて保存し、長崎市と協議をしながら説明板を設置するなど現状保存のための整備を行う予定です。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学施設部施設整備課 TEL095-819-2137

長崎大学キャンパスマップ

坂本キャンパス①

医学部（医学科）

熱帯医学・グローバルヘルス研究科

熱帯医学研究所

原爆後障害医療研究所

高度感染症研究センター

- 10 良順会館
- 11 レジデンス・精得館
- 12 生協食堂
- 13 第1講義実習棟
- 14 ヒューマンカウンター
- 15 先端ゲノム研究センター
- 16 放射線総合センター
- 17 バイオメディカルモデル動物研究センター
- 18 第2講義実習棟



- 1 グローバルヘルス総合研究棟
- 2 長崎大学医学ミュージアム
- 3 グビローニングセンター
- 4 グビロが丘
- 5 ボンペ会館
- 6 坂本検収センター
- 7 附属図書館医学分館
- 8 記念講堂
- 9 ゲストハウス

1. 生化学教室及び資料室の基礎

2. 旧通用門の門柱及び基礎

1. 生化学教室及び資料室の基礎



①地点から撮影



2. 旧通用門の門柱及び基礎

